

●特別寄稿

中学生がこれからの観光について考える シンポジウム(石垣市)と社会科の役割

玉川大学教育学部 教授 寺本 潔

1 観光地、八重山の魅力と人材の育成

観光立国を標榜するわが国で、観光の人材育成は急務である。公教育でも観光を題材にした学びがもっと増えてよいはずであるが、そうになっていない。筆者は、長年沖縄県の教育現場に入り、社会科指導を軸に支援を続けてきているが、5年ほど前からは観光の教材開発と出前授業を実施してきた(詳しくは、月刊『地理』古今書院 2017年11月号を参照)。本稿では、2017年7月13日、沖縄県石垣市市民会館において当市の490名の中学3年生を集めて開催された市政施行70周年記念事業「中学生がこれからの観光について考えるシンポジウム」を紹介し、観光教育と社会科の役割を考えてみたい。シンポで登壇された方々は以下の通りである。司会：寺本潔、シンポジスト：丁野朗氏(東洋大学大学院客員教授)、親盛一功氏(美ら花グループ代表取締役社長)、吉浜幸雅氏(那覇市立小祿小学校長)、高倉大氏(市観光交流協会事務局長)、市内中学3年生代表4名の計8名。ここでは中学生の意見を抜粋して紹介したい。

沖縄県八重山地域は、亜熱帯気候のもと美し



写真 ステージ上で公開授業を行っているようす(「中学生がこれからの観光について考えるシンポジウム」)

撮影：小栗有子氏(鹿児島大学准教授)

いサンゴ礁と独特な伝統文化が魅力の離島である。しかし、島の将来を左右する観光産業において、人材の育成は単発的で系統化されていない。島の中学生が自分の課題意識に観光を引き寄せる必要がある。シンポ冒頭で筆者からの「観光客にとって石垣島の魅力は何か？何を磨けばもっと魅力的になるか？」という問いかけに対して、登壇した中学生は、「生物多様性が魅力と思う。でも自然環境そのものの魅力に関して石垣島の人の認知度が低いと感じています。私はもっと知識を身につけ、その重要性を島の人たちに知らせていきたい(中3女子)、「サンゴにかこまれ世界有数のシュノーケルスポットがある。Wi-Fiとパンフレットの整備をもっと進める(中3男子)、「海が魅力。エメラルドグリーンは日本100景に選ばれている。サンゴ白化が進行しているが、もっと観光客との相互理解と協力が必要(中3男子)といった驚くべき発言が飛び出した。「中学生はちゃんと島の観光について考えている！」と観光教育の推進に心強い印象を抱いた。

今後の展開に対しても「環境省のレッドリストに登録された生き物をより多くの市民に楽しく紹介することに携わっていきたい(中3女子)という意見や野生動物の保護、外国人観光客への対応、観光開発と環境保全の問題のほか、「リセットと発信が鍵。自分のもっている考えをリセットして、観光客の立場に立つことで新しい発見になる。いろいろな疑問が出てくると思うので、アニメーションなどを使って発信していけるといいかなと思います(中3女子)、「水不足と排水浄化が重要。バイオテクノロジーの力をつかって改善し、バイオ・ダイバーシティを実現したい(中3女子)など具体的な意見

も出され、充実した内容となった（詳細は八重山毎日新聞7月14日一面参照）。

観光の学びは、中学生たちの発言にもみるように多角的な思考を促し、地域の課題を自分に引き寄せ、問題解決力の伸長につながる。次期学習指導要領の主眼である「主体的・対話的で深い学び」にも寄与すると考えられることから、社会科や学校活動における観光事象の活用を考えてみたい。

2 観光を題材とした社会科地図帳の活用

地図帳は、観光を題材に活用ができる。例えば、地理的分野「日本の諸地域」で次のような活用が可能である。『中学校社会科地図』には「①中国・四国地方の自然・産業・暮らし」(p.91)という資料図が掲載されており、高知のゆず栽培や徳島のすだち、瀬戸内のみかん、もも、小豆島のオリーブ等や出雲大社、金刀比羅宮、道後温泉のイラストも挿入され、まるで観光地図のような内容となっている。そこで、生徒に4泊5日で中・四国を巡る観光プランを発表させても面白い。過疎化が進む中・四国の観光による活性化策も盛り込ませるのである。世界の諸地域学習でもヨーロッパの資料図を用いれば、パスタ料理やチーズを楽しむ欧州食旅プランが立案できる。北米では大陸横断のバス旅を紹介し、景色の変化を想像させるとアメリカ合衆国の大地形と大規模農業が類推できる。

観光は自然と食、歴史文化に大に関わるため、地誌的知識が豊かになる。地図帳を活用して見方・考え方を鍛える学びが実現できる。

3 観光教育の可能性

日常の授業の題材に観光事象を取り入れることはもちろんだが、部活として「観光クラブ」を設置するのも面白い。おもな活動は、地元を訪れる観光客の動向調べや県や市の観光協会とのコラボ企画、市のイベントでの観光振興プラ



図 『中学校社会科地図』 p.91 「①中国・四国地方の自然・産業・暮らし」(部分)

ン紹介、全国高等学校観光選手権大会へのオブザーバー参加などである。県内に観光系の学部があれば大学との連携も模索できる。中学生ならではの発想や表現を十分に発揮させ、“地図帳を左手に観光パンフを右手に”を合言葉に楽しく活動できる。近年、増加しつつある訪日外国人観光客の発地に関する情報調べも活動に入れたい。例えば、香港からの観光客が多いとわかったら香港の都市情報や中国と香港の関係性について調べ、香港の人の気持ちを類推するといった国際理解にもつながる。

市や県の観光協会からもさまざまな振興策が発表されているので、職員を学校に呼んで話を聞くことも良い勉強になる。観光は地元の農水産業、加工業、文化財、自然景観、食文化、イベント、交通との関連が強いので、裾野が広い。中学生自身の将来の職業選択においても観光について考える機会はメリット大である。また、修学旅行の事前学習で単に地理歴史的側面を調べさせるだけでなく、訪問先の観光政策や宿泊ホテルのさまざまなおもてなし、著名な寺社が工夫する観光客向けの運営なども調べさせるとキャリア教育につながる。

(参考文献)

- ・寺本潔・澤達大編著『観光教育への招待－社会科から地域人材育成まで』ミネルヴァ書房(2016年)
- ・寺本潔著『教師のための地図活－地図帳・地球儀・防災・観光の活かし方』帝国書院(2017年) ほか